

モデルプログラム D-2 文化適応ー異文化体験をするー

ねらい	異文化体験ゲーム「バーンガ」への参加を通して、移動によって新たな文化に接したときの気持ちや振る舞いを想像するとともに、文化を捉えるための基礎的な概念や理論を知り、外国人児童生徒等の移動後の心的な状況を共感的に理解しようとし、その適応をどのように支援するかを考える。
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 現職一般教員 <input checked="" type="checkbox"/> 管理職 <input checked="" type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input checked="" type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input checked="" type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	D 文化適応 A 外国人児童生徒教育の課題
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	90分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 異文化体験ゲームを行う。（30分） 2. 体験を振り返る。（15分） ・文化間移動とライフコース（A） 3. 文化に関する概念・理論を知り、文化間移動後の児童生徒の状況を理解する。（30分）。 ・自文化中心主義ー文化相対主義（D） ・文化本質主義ー文化構築主義（D） ・心的文化変容（同化、分離、統合、境界化）（D） 4. 教員・支援者の役割を考える。（15分）	1. 異文化体験ゲーム「バーンガ」を行う。 1) グループに分かれる（グループは4～5名）。 ・ゲームが終わるまで話さないように指示する。 2) 「バーンガ」を行う （参考文献：神奈川県教育委員会『人権教育学習教材（平成22年版）』等） 2. 異文化体験ゲームを振り返り、異文化体験ゲームで自分が感じたことを整理する。 1) ゲームに参加している時に感じたことを話し合う（グループで）。 2) 1)で話し合ったことを、次の手順で分析的に考える（グループで）。 ①実際に何がおこったか、見たか。 ②それをどう解釈したか。 ③どのような気持ちになったか。 3) 2)の話し合いについてグループから報告をする。 3. 文化に関する概念や理論について知り、文化間移動をする児童生徒の心の状態や振る舞いを理解する。 1) 講義を聴く ・自文化中心主義ー文化相対主義 ・文化本質主義ー文化構築主義 ・心的文化変容（同化/分離/統合/境界化）など 2) 異文化体験で感じたいこと・話し合ったことを整理する。 ・ゲームと同じことが日常生活のどのようなときに起こりうるか、またその場面に遭遇したらどうしたらよいかを話し合う。 3) 外国人児童生徒等が、来日後に何をどのように感じるか話し合う。 4. 教員・支援者の役割として、外国人児童生徒等が文化的差異に戸惑っている場合、どのように教育的対応や支援を行うことが必要か考える。 ◇具体的な子どもの姿を想像しながら話し合わせる。
備考	60分で実施する場合は、1の「異文化体験」と2の振り返りを中心にする。既に、講義で文化に関わる理論・概念を学んでいる場合は、3を割愛する。